

第4章 2050年における住宅ストックの姿

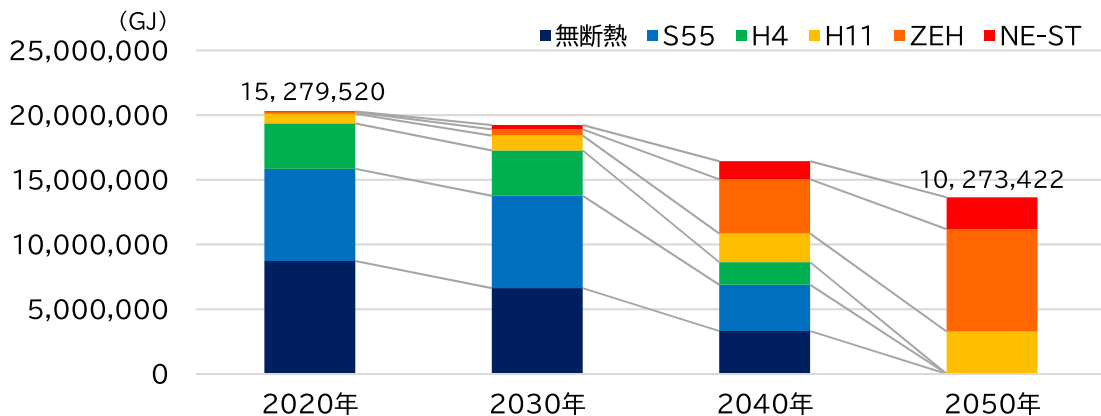
2050年脱炭素社会を実現するためには、2050年における住宅ストックのエネルギー削減(省エネ)と再生可能エネルギーの導入(創エネ)の目指すべき姿を描き、バックキャストイングによる目標設定が必要となります。

令和3年8月23日に公表された「脱炭素社会に向けた住宅・建築物における省エネ対策等のあり方・進め方」において、2050年の目指すべき住宅の姿として住宅ストック平均でZEH(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)の省エネ性能を確保することが示されました。この考え方にに基づき、鳥取県の2050年における住宅ストックの姿として以下の目標を掲げます。

- 2030年までに新築住宅では『NE-ST』を標準化する
- 2050年までに既存住宅は平均でZEHの省エネ性能を確保する

2020年時点における県内の住宅ストックの一次エネルギー消費量を算定し、2050年までの一次エネルギー消費量の削減目標を以下に示します。目標が達成された場合、2050年の一次エネルギー消費量は2020年比で32%削減される見込みです。

■鳥取県内の住宅ストックにおける一次エネルギー消費量の推計



・各性能別の一次エネルギー消費量は国交省公表資料(令和3年7月脱炭素社会に向けた住宅・建築物の省エネ対策等のあり方検討会資料4)による。なお、NE-STの一次エネルギー消費量は県認定実績の平均値を採用。
 ・空き家は一次エネルギー消費量をゼロとして算定。
 ・性能別の戸数はH22時点での全国平均の割合から、H23以降の新築及び減失戸数の推移により現状値を試算(H23以降の新築性能は全国値の割合を乗じて算定)

区分	無断熱	国の省エネ基準			ZEH (ゼッチ)	とっとり健康省エネ住宅性能基準『NE-ST』		
		等級2	等級3	等級4		T-G1	T-G2	T-G3
基準の説明		旧基準 (S55年)	新基準 (H4年)	次世代基準 (H11年)	2020年標準 政府推進	冷暖房費を抑える ために必要な 最低限レベル	経済的で快適 に生活できる 推奨レベル	優れた快適性を 有する 最高レベル
断熱性能U _A 値	—	—	1.54	0.87	0.60	0.48	0.34	0.23
気密性能C値	—	—	—	—	—	1.0	1.0	1.0
冷暖房費削減率	—	—	—	0%	約10%削減	約30%削減	約50%削減	約70%削減
国と鳥取県の 現状と目標	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 10px;">▲2020年 既存住宅の平均</div> <div style="flex-grow: 1; position: relative;"> <div style="position: absolute; top: -10px; left: 50%; transform: translate(-50%, -50%);">▲2030年 新築義務化(国)</div> <div style="position: absolute; top: -10px; right: 50%; transform: translate(50%, -50%);">▲2030年 新築標準化(県)</div> <div style="position: absolute; bottom: -10px; left: 50%; transform: translate(-50%, -50%);">▲2050年 既存住宅の平均(国・県)</div> </div> <div style="margin-left: 10px;">→</div> </div>							